

職業・家庭科教育の研究を

どのようにすすめるか

長谷川 淳

数年前までは毎年夏に、文部省主催の中等教育研究会という年中行事がおこなわれていた。戦前には教師たちが集まって教育の研究をするという自由のなかつた日本の教育界にとつては、この教育研究会は大きな意義をもつものであつた。しかしこれは、最初占領軍の手によつて進められ、次いで文部省によつて引きつがれたもので、あらかじめ定められた筋道通りに研究が進められ、その筋道に教師を引きずり込む役割をするにすぎないものであつた。

職業・家庭科に因しても全く同様であつたが、それ以上にこの教科については、第一に研究に先立つてまず職業教育の必要性を強調したり、職業教育に対する一般の同情を求めたり、この教育の振興のための立法運動を展開したりするデモンストラーションであり、第二には、文部省が作製した学習指導要領の原案を説明してこれに従わせるための集会にすぎなかつた。学習指導要領がつくられてからは、その基準に従つたカリキュラムの一覽表をつくる作業がおこなわれ、研究会はあたかも優良カリキュラムのコンクールの観があつた。文部省の基準を百とし、どれだけそれに類似し、どれほど

新奇であるかによつて品等された。こんなことが奨励され流行しているうちに、職業科の教育はますます残り残されて行つた。しかしこれは、この教育の本当の研究、この教科の教材の本質をつきとめることを、指導者たちが恐れていたからとも考えることができる。

その筋道Ⅱカリキュラムにしたがつておこなわれる教育は、役人と教師の間のはたらきやいと名みではなく、教師と子どもとの間のものである教育は不当な支配に服させるものでもなく、特定の役人の意図した方向に子供たちを歩ませるものでもない。それは国民全体に対して直接に責任を負つて教師によつておこなわれるものであり、それぞれ異つた条件の中で生活している子どもたちを、すべての方面に発達させ、これからの社会の発展をになう有能な人間に成長するようにしてやることであることは言うまでもない。さらにまたカリキュラムの作成は、ほゞ大なるプリントを作つたり、いかにもよく整つた表をつくりあげたりすることでもない。

子どもたちの実際の生活から離れたところでカリキュラムを作りそれを表にして壁にはつておくだけでは、職業科の教育がすこしも推進されないことは、現場の教師が一ばんよく知つてゐる。このこ

とを文部省もやつと気づき始め、それに対処して、規律性を持ち拘束性を一そう強めた学習指導要領を新に公布した。つきつぎと打ちだされる方策に対して、教師たちは子どもたちの成長を見まもりながら、教科の教材研究をつみ、集団による共同研究の全国集会在五回ももたれ、民間研究団体が成長し、良識ある進歩的な教科書会社は検定合格すればの教科書を作成し、学校は監督者に見せるカリキュラムと、実際のカリキュラムの二つを用意するまでになった。

2

これから職業科の教育を推進していくためには、一方の措置に対してどのように対処していくかというだけでなく、その中から採るべきものは採り、まもるべきものはまもるより以上に、この教育に対して根本的な再検討を加えなければならないところに来ている。

この教科は、他の普通教育の教科とともに義務教育の中の重要な一部門であり、現代の生産の最も重要な部門について知らせ、現代の生産の基本的な道具や機械や材料の技術的特性を理解してその取扱に習熟させ、手や機械による労働のプロセスを理解させるものである。したがってこの教科の教育の研究にとつてまず第一に必要なことは、その教育内容である生産技術の構造の研究である。

現代の生産技術は、自然科学の発達と密接な相互の関連をもつて発達したものであり、自然科学を基礎にもち、その発展なくしては生産技術の発展を期待することはできない。したがって技術教育は、自然科学および数学の確実な系統的な学習を土台としたものでなければならぬ。すなわち、この教育においては、自然科学および数学の法則を生産に応用することを学ばせ、それによつてまた逆に自然科学および数学の内容を一そう具体化し高めるようなもので

いる生産についての、ゆたかな知識と技術をもつた人間でなければならぬし、それに能動的に立ち向うことのできる人間でなければならぬ。

またこの教科の学習によつて得られるものは、生産技術の習得や生産の主要部門についての理解だけでなく、それとともに重要な普通教育的意義は、この学習を通じて複雑な技術的事象を分析し一般化し、一般的な技術的法則を発見し、物と物との間の関係を見出し統一し、綜合する力を養うことである。

これまでのこの教科の研究の中心は、さきにも述べたように、整った教科課程をつくること、指導の方法の問題であつたが、学習の内容である生産技術の構造を明らかにすることなしには、生徒の学習の筋道を立てることも、それに従つて歩ませる方法も、導きだすことはできない。

したがつて、われわれにとつて必要なことは、まず専門の領域での高い水準の専門的な知識と技術を習得することであり、それとともに、生産技術の基礎である数学と科学の系統性と、技術自体の構造と系統性に従つて生徒に提供する教材を整理することである。

3

この教科は、知育、体育、芸術教育、道徳教育とともに普通教育の重要な一部門であり、この教科の教育を通して子どもたちをあらゆる方面に発達させるものである。したがつてこの教科の研究にあつて、この教育を受けて成長していく子供たちの研究が欠くことのできない重要なものである。

この教科の教育は、生徒たちの知的身体的発達の段階に応じたものでなければならぬし、その教科内容はまた、生徒たちが直面す

なければならぬ。技術が、この自然科学的基礎をもつことによつて、秘伝やカンやコツに依存しないものとなり、誰によつても習得ができ、すべての人のものとすることができる。

このことから職業科は、教育計画全体の中で他の教科特に理科・数学との関連を緊密にしたものであることが必要であり、これと関連のない教材を整理し省いていくことが必要になる。この生産技術はまた、一定の系統をもち、その基礎である技術学は系統的な法則をもっている。したがつて、生産の技術過程について、一定の順序で系統的に確実に理解し、習熟していくことが必要である。

また生産技術はその発達とともに分化し専門化してきている。それぞれに分化した領域の中で高い水準の生産技術を身につけていくためには、その基礎にある基本的な生産技術に精通することによつてそれを可能にし、これによつてまた、各分化した領域の間の関連や共通の法則を学びとることができ、各分化した領域の発展を一そう推進していくために必要な、綜合のための基礎をつくることのできる。

これまでしばしば、職業科教育は物を生産する教育ではなく、人間をつくる教育だと言われて来た。確かにその通りである。しかし現代においては人間一般というものは考えられない。これをことさらに強調する側の主張は——たとえば学習指導要領のように——子どもたちに生産に対する眼を開かせ、科学的精神を培うのではなく反対にこれに対してことさらに警戒し、子供たちを鍛練し、習慣や態度を訓練して、どんな苦しい労働に対しても、無批判に従順にしたがわせることを目的としている。教育によつてつくられる人間はこれからのわれわれの生活を支え、生活の発展やあり方を規定して

る生活の現実とそれに応じた課題につながるものでなければならぬ。これに関して学習指導要領一般篇は次のように述べている。「学校の程度では生徒の経験の範囲も狭く、個性もまだ正確にわかっていないのが普通である」し、「知識や技能あるいは行動のしかたにおいていまだ未熟であり、欠けているから、未熟なものを発達させ、欠けているものを備えて行く」ことが必要であり、これは「生物としての人間の分析から発見されるもの」である。したがつて「普通の児童や生徒であれば到達できると思われ学習内容を示し、当該の学年のうちに学習させておくのが適当であると思われ」ことを示唆する」と、生徒の発達と学習能力について定式化している。

しかし中学校の段階の生徒たちは、小学校において一定の教育の準備をもっており、また他教科についての知識を習得しつづあり、生産の基礎となる科学的原理や法則の理解の準備がある程度そなわつている。またさびしい国民経済や国民生活の現実の中で、子どもたちは、相応に今後解決すべき問題の意識を初次的に備えている。したがつて生産の技術を組織的に習得し、生産の組織についての理解をより深く習得しようとする関心や努力をのびしてやることは、十分に可能である。

生徒たちがこのような教育をうけて、成長することが可能か否かについての、生徒の知的・身体的発達の研究、心理的な研究だけでなく、この教育によつて生徒たちの知識や能力がどのように発達し変革され、さらにどのように高い知識をうる準備がそなわつていくかということについての、科学的研究が必要である。学習指導要領は、この生徒たちの潜在的な能力と発達の可能性とを無視し、或はこれをおさえて、知的な発達段階に応じるといふ各目的のもとに、

逆に身体的発達の段階をこえて、肉体労働をおこなわせようとして
いる。生産技術の構造の研究とともに、この生徒の心理的身体的な
発達の過程や、現在を明らかにすることによつてはじめて、教材の
質と量とその系列が明らかにされ、学習の筋道と方法が明らかにさ
れる。

4

この教科は、現代生産の重要部門について知らせ、労働を基礎と
して成り立っている社会的諸関係を理解させるものである。さらに
基礎的な生産技術の習得とともに、生産の社会的諸関係の基礎を習
得することによつて、学校を卒業してからどの職業につく場合にも
その職業の基礎として役立つことができるのである。したがつ
てこの教科の研究で大切なことは、技術の社会的機能や生産の社会
的諸関係、および技術教育の歴史的・社会的背景の研究である。

義務教育をおえた生徒たちが、将来どんな職業につき、社会の中
のどんな実生活動に入る場合にも、社会生活を規定し、職業を支え
ている現代の生産のしくみと、その中の労働の役割について知ら
せなければならぬ。この教科は、これを、生産活動を通して、労
働を通して、生産技術の習得の過程において、生産の社会的役割を
理解させ、生産技術の発展をさまたげ或は促進させている諸条件を
理解させるものである。したがつて、生産技術の社会的機能を研究
することが第一に必要である。

つぎに、この教科で学習する知識技術は、将来の職業生活の基礎
として役立つ、また現在の生活の問題の処理に役立つものである。
したがつて、この教育をうけている生徒たちや父兄、あるいは卒業
する生徒たちを受け入れる社会は、この教育に対して特別の関心と

期待と懸念をもっている。直接職業や生活に役立たせることを念願
しても、これは将来の職業の確保と生活の保証をのぞんでいるもの
であり、また現在の苦しい条件から解放を念願しているものではな
い。現在の苦しい労働を少しでも意義のあるものに変え高めるため
の、働き方の知識や技術的方法を習得したいことであり、多くのも
のが方をあわせて共通の問題とよりくみ、それを解決する知識と技
術をつみあげ、苦しい労働の結果が自分のものとなつてむくみられ
労働が正しく評価される条件を少しづつでも作りだしていく力の基
礎になるような知識や技術を身につけさせたいことである。

この生徒たちや父兄の欲望、社会からの要求を直接的・平面的に
うけとめるのではなく、その底にあるものを立体的にとらえること
が必要であり、これらの要求の分析と、この教科の基本的な目標と
の関連について研究することが必要である。

つぎに、これまで技術教育がどのような社会的背景のもとで、ど
のような要因によつて規定されて来ているか、また技術そのものの
発展をつらぬくために社会的背景からどのように独立して技術教育
が発展して来たかを研究し、その中から技術教育の方法を学ぶこと
も、現在の社会とそれの中の職業・家庭科に持たされている役割
とを、われわれの側から検討することが必要である。

この教育によつて、すべての方面に発達しようとする生徒たち
と、発達させようとする親や教師の基本的な要求に照して、はじめ
て学習指導要領の批判も、これに拘束されない実践も、向主的な教
育計画の作成も可能になる。